課題番号 19

「そらきらり」の安定生産

～疎植栽培の導入戸数増加～

対象：JA新すながわ「そらきらり」生産者17名

1　活動の背景

現　状	課　題	対応策
・R5年から新品種として導入 ・品種特性を活かした栽培技術（疎植多肥）が未定着	成苗ポット　栽培指標：有 栽培指標に基づく省力栽培の確立 中苗箱マット 栽培指標：無 上記指標を活用した栽培技術の導入	R5～6 疎植・多肥の効果を実証済 ⇨ 波及活動 R6～7 まずは疎植の効果を確認 ⇨ 更なるデータ蓄積 実証継続

疎植栽培を導入し、省力化・安定生産を図る！

目標：疎植導入農家戸数　２戸→８戸

2　活動の経過

●成苗ポット疎植栽培導入の波及

▷講習会、個別対応等で提案
▷株間に合わせた増肥による多収栽培も併せて提案

講習会

個別対応

区　分	栽植密度(㎡)	株間(cm)
標　準	22～24株	12～13
やや疎植	19～20株	15～16
疎　植	15～17株	18～20
超疎植	11～12株	25～27

北海道米麦改良協会より引用

17cm以上を推奨

●中苗箱マット栽培実証（２年目）

▷成苗ポットの栽培指標が中苗箱マットでも応用可能か検証

実証区設置

疎植栽培の有効性を実証

R6試験では、疎植で慣行株間比10%増だったので、今年の試験も期待してます！

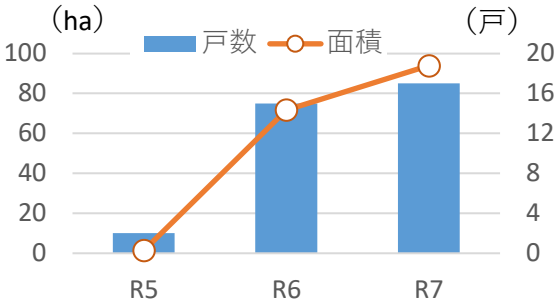
実証２年目の農業者

３　活動実績の具体的内容

疎植栽培の導入が進む

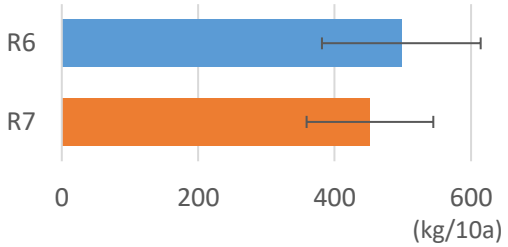
目標達成

達成度：163%　（疎植導入戸数：現状2戸→目標8戸→実績13戸）



「そらきらり」導入戸数・面積

一気に増えた！



JA新すながわ「そらきらり」出荷実績
（R6から作付けする17戸）

収量における個人差が
小さくなり、技術が平準化した！

○疎植栽培でも、**安定生産**に繋がった！

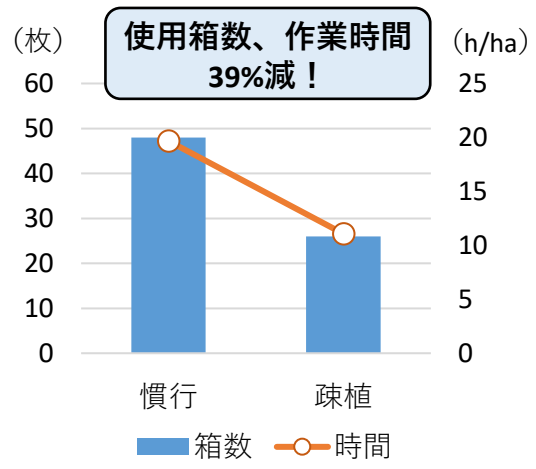
農業者

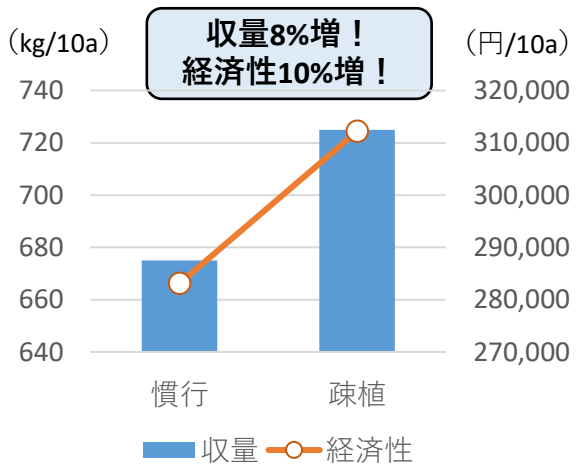
猛暑の中でも
問題なく穫れ
ました！

JA担当者

来年にはそらきらりの面積が慣行品種
を上回る！将来的な全面置き換えを視
野に引き続き情報提供してほしい！

中苗箱マットでも栽培指標と同様の結果に





疎植栽培で省力化と多収を実現！

４　今後の課題と対応

・疎植栽培の更なる波及
・多肥疎植栽培の収量・経済性の検証